

寄り合い暮らし

～同じ境遇にある人々が助け合いながら暮らす住まい～

01. 誰が住む？

同じ境遇をもつ同性3人



児童養護
施設
出身者

単身
外国人

貧困
学生

単身
高齢者

01-1.社会・入居者らの背景

- 「住宅確保要配慮者」の増加と賃貸住宅契約のハードル上昇
：保証人問題や孤独死リスク、収入面などの理由から、一般の民間賃貸住宅の入居審査に通りにくい現状がある
- 生活費・光熱費の高騰による単身生活の困窮
- 単身者の「孤立・孤独」の深刻化

01-2.不動産・オーナー側の背景

- 「広すぎる空き家」の利活用難
：既存の戸建て住宅は、単身者には面積が広く、ファミリー層には間取りや設備の老朽化で貸しづらいというミスマッチ
- 改修コストの高騰

02. 住まいの工夫

02-1.「寄り合い生活」のメリット

- 最低限のプライバシーを確保したうえで、家賃や生活費を折半することができる
- 入居者同士の交流による孤立を防止する
- 「同じ境遇」を持つ人々が集まることで、共同生活のトラブル防止やコミュニケーションの活性化につながる

02-2. 既存住宅からの改修点

- 台所周辺の床の老朽化に伴い、床を全面をフローリング仕上げる
- 居室②③の壁位置ををずらし（南に455mm）、3居室の面積を均等にする
- 勝手口を取り消し、キッチンを広く使える配置計画
- 既存住宅の造りを活かしたレイアウトにし、改修費用を抑える
- 自立している人が生活することを前提とし、水回りをできるだけ省スペースに抑える

03. 空間イメージ

アイソメ図



内観パース

～それぞれの居室～



各居室にはベッド・机・収納家具を設置。安心できるプライベート空間をできる限り平等になるよう設置。

～共用部（LDK）～



入居者が交流する共用部。玄関、各部屋をつなぐ中心位置に配置することで交流を促す。

04. 配置計画

若者や外国人の生活にはシャワー室が最適と考える。この変更により浴槽や省スペースを実現する。



1/50平面図

